
Ⅲ. 自由記述

本調査における自由記述は、回答者全体（825団体）の約3分の1である294団体からさまざまな意見が寄せられた。

内容については一部抜粋し、重複しているものをまとめるなどして、以下の項目に整理・分類した。

1. 子どもたちについて
 - (1) 子どもたちの居場所に関すること
 - (2) 子どもたちの体験（食育・伝統文化など）に関すること
 - (3) 子どもたちの自主性に関すること
2. 親（大人）について
 - (1) 親（大人）の教育力に関すること
 - (2) 親（大人）の時間・ゆとりに関すること
3. 地域について
 - (1) 地域の人たちの交流に関すること
 - (2) 地域活動への参加に関すること
 - (3) 地域への期待・要望
4. 団体について
 - (1) 団体の運営に関すること
 - (2) 団体の連携に関すること
5. 行政・学校・企業・地域の団体への要望
6. 地域全体で子どもたちをはぐくむ事例紹介

自由記述の各項目末尾に団体名を記したが、表記は以下のとおりとする。

青少年育成協議会	→	【育成協】
小学校PTA・中学校PTA	→	【PTA】
民生委員児童委員連絡協議会	→	【民生児童委員】
NPO法人	→	【NPO】
地域コミュニティ協議会	→	【コミ協】
スポーツ少年団	→	【スポ少】
伝統文化に関わる団体	→	【伝統文化】

なお、【事業所・企業】とは、教育・学習支援及び医療・福祉に関わる事業所・企業を抜粋したものである。

1. 子どもたちについて

(1) 子どもたちの居場所に関すること

- ・子どもが五感で会得できる自然環境をできるだけたくさん残してあげることが必要。
【NPO】
- ・子どもたちが安心して遊べる、地域の公園があれば、子どもたちも集まりやすく、大人の目が届き、地域で子どもたちをはぐくむことにつながるのではない。
【育成協】【子ども会】
- ・空地が減り、子どもが気軽に遊べる場所が減り、車の通りが少ない住宅地の道路で遊ぶ子が目立つ。しかし、安全の面から、好ましいことではない。歩行者天国のように、子どもが自由に遊べるスペースを住宅地内に設けるなど、小さな子どもでも安心して遊べる場所があったらいい。
【PTA】【子ども会】【事業所・企業】
- ・遊ぶ場所、自転車乗りの練習場所、あそこへ行けば友達に会える場所が地域に必要。
【スポ少】【事業所・企業】
- ・小学3年生までは放課後の「ひまわりクラブ」があるが、その後中学生までの居場所がない。
【子ども会】【民生児童委員】
- ・学校の図書館を一般に開放し、地域での居場所づくりの場としてはどうか。【民生児童委員】

(2) 子どもたちの体験（食育・伝統文化など）に関すること

- ・子どもたちの健全育成のために幼児期、学童期の運動、スポーツは重要。
【NPO】
- ・国際理解と交流文化を目的にしているので、外国語を修得することは有意義であり、その手助けとなると思う。
【事業所・企業】
- ・食育を通じて子どもたちのマナー、身体発達を促進する。
【民生児童委員】【NPO】
- ・子どもたちが地域で生まれ、育っていることを実感し、それを誇りに思えるような地域づくりが大切。そのために祭りや郷土芸能又は昔ばなし、伝説などの学習をし、地域に親しめる郷土教育のような活動を学校等の協力を得て実施したい。
【コミ協】
- ・大人だけでなく子どもも準備段階から手伝っていく過程を増やす方が、「達成感」などの勉強になるのではない。
【子ども会】

(3) 子どもたちの自主性に関すること

- ・子どもたちが自主的に参加できる事業を検討する必要がある。
【事業所・企業】
 - ・子どもたちにもボランティアクラブのようなものを作り、してもらいばかりではなく、参加する機会や教育を増やしてはどうか。学校の授業にもあるが授業としてだけのような気がする。
【子ども会】
 - ・子どもたち自身がまとめ企画し活動する場が地域ではあまりみられない。大人や親が出過ぎていように思える。大人はあくまで裏方役、子どもたち自身が先頭にたつてまとめ、活動をしていく場を作りあげていく必要がある。
【民生児童委員】
 - ・子どもには子どもの世界（集団）があり、その中で子どもは育っていく。子どもの中からリーダーが出てくるような地域環境が望ましい。
【コミ協】
-

2. 親（大人）について

(1) 親（大人）の教育力に関すること

- ・子どもたちの生活・行動は、全て親の影響を受ける。親がまず地域のコミュニティに参加することが大事。 【PTA】【子ども会】
- ・ボランティアで子どもたちにかかわっているが、その親の参加がなく、預けっぱなしのよう関心が薄い。 【コミ協】
- ・家庭の事情でスポーツや地域活動に参加できない子どもが多い。親の理解が必要と思う。 【スポ少】
- ・子どもたちと接する中で、子ども同士のトラブルは指導者で解決できるが、保護者同士のトラブルや指導者への非難等の問題で退団して行く子どもたちが多。 【スポ少】
- ・親の意識改革が必要。 【伝統文化】
- ・子どもたちをはぐくむ前に父母の再教育が大切。 【スポ少】【民生児童委員】【事業所・企業】
- ・来館者を見て感じるのは、親の社会性の無さである。子どもをしかれない、団体の規律を親が乱す、子どもを放置して親同士で行動する等。まずは親に常識を持ってもらう。そういうことを学び感じられる場所や機会を増やすべきだと思う。 【事業所・企業】

(2) 親（大人）の時間・ゆとりに関すること

- ・地域全体で子どもをはぐくむには、大人に時間と気持ちの余裕がなくて難しい。 【PTA】【子ども会】
- ・子どもの数が減り、さらに共働き世帯がほとんどの現状で、地域活動をおこなっていくのは大変難しい状況である。心にゆとりがないと地域活動に参加する意欲がわからない。社会全体が仕事重視から家庭重視の考え方に変わっていったらいいのと思う。 【子ども会】
- ・子どもの親が子どもと地域に係る行事、ボランティアなどに関心が低い。（自分の子だけで手いっぱい。）また、仕事・家庭の多忙により、気持ちがあっても参加できないなどで特定・少数の人だけしかかかわれていない現状がある。母親・父親双方が、気持ちのうえでも時間的にも余裕の持てる環境（社会）になることこそが地域全体での子ども育成につながると思う。 【民生児童委員】

3. 地域について

(1) 地域の人たちの交流に関すること

① 地域の子どもたちと大人の交流について

- ・近所の子どもたちに、まずあいさつなどの声かけをして、子どもたちとの距離感を縮め、目を行き届かせるようにすることから始めたら、子どもたちも地域の大人に対して、自分たちは常に見守られているのだという信頼感を持ってくれるのではないか。 【子ども会】【コミ協】【事業所・企業】【伝統文化】
 - ・親以外の大人とのかかわりは子どもにとって、とても大切なことだと思うので、そんな機会が増えればと思う。 【PTA】【事業所・企業】
-

-
- ・核家族や転勤などの転出・転入、生活の多様化により、地域住民のつながりが希薄だと感じる。緊急時に助け合えるのか不安感を持つ。子どもを持つ世帯だけに限らず、地域全体が顔を合わせる機会が自然に増えれば、知り合いも増え、地域に愛着を持てるのではないだろうか。連帯意識も強まると思う。子どもも、いろいろな世代・考え方の大人と接することで成長すると思うので、交流の場や機会があればいいと思う。 【子ども会】

- ・核家族が増えているのでお年寄りとお年寄りの交流の場も積極的に増やし、伝統や風習、優しく見守られる安心感などを伝えていけたらよいと思う。

【育成協】【PTA】【民生児童委員】【子ども会】【事業所・企業】

- ・子どもたちとお年寄りが気軽に会える場所を作る。たくさん学ぶことがあるし、お年寄りにとっては張り合いになる。 【育成協】【事業所・企業】【伝統文化】

- ・パソコン教室を営んでいる。年配の方と子どもたちが一緒になって（教えたり教わったりと…）ハガキ等の作成（文書入力）や、インターネットで調べものをしたりと、楽しみながら交流できれば良いと考えている。 【事業所・企業】

② 地域の子どもたち同士の交流について

- ・少子化が進む中、ふだんはなかなか一緒に活動できない異学年との交流を増やして縦のつながりも強めていきたい。 【育成協】

- ・昔のような、おにごっこや自転車、ボールあそび、どろだんご作りのような遊びを通じて、学年を超えた友達ができる。年上の子の遊びを見て、年下の子たちができることも増え、運動能力もアップするように感じる。 【事業所・企業】

③ 地域の大人同士の交流について

- ・保護者同士の会合の場を多くし、コミュニケーションの輪が広がれば子どもたちもより素直になれると考える。 【PTA】

- ・親、大人たちが地域の活動に多く参加し、まずは親、大人たちが交流し、地域の情報、子どもたちの情報を共有することが大事。 【子ども会】【スポ少】

④ 地域の絆づくりについて

- ・地域住民、親子、子どもたちの絆づくりができる機会を多く作ることが大事。 【育成協】

- ・子どもを知る。子どもの話を聞く機会を作ることが必要。 【事業所・企業】

- ・保護者が我が子だけでなく、広く地域の子、地域の人たちとかかわることが大切。【PTA】

- ・「知らない人」に対し、保守的になっている現代の中では、顔の見える関係をつくることから始まっていくような気がする。 【子ども会】

- ・子ども、親、お年寄りの3世代がうまく交流できる環境をもう少し工夫できたらと思う。

【PTA】

- ・地域コミュニティというくくりの中で乳幼児と中学生の交流会や、地域住民としての中学生と大人と一緒に防災訓練等ができるとうい。 【育成協】【PTA】【民生児童委員】
-

-
- ・地域で子どもたちとかかわるには、一緒にいる場が必要だと思う。小さな子どもと親が遊び、年長の子どもたちがキャッチボールやサッカーで体を動かす。そのそばで大人が散歩をしたり休んだり、同じ場において顔を合わせていることで自然とつながりもでてくると思う。 【子ども会】

(2) 地域活動への参加に関すること

- ・「子ども」がいない家庭でも、関心を持つことが基本。地域の活動に積極的に参加することも大切なことである。 【事業所・企業】
- ・学校をメインにすると活動は平日が中心、地域をメインにすると活動は休日が中心。どちらも参加するには制約が伴う。参加者の拡大の工夫が今後の課題。 【コミ協】
- ・学校行事（PTA含む）には地域の方が、地域イベントには、子どもたちそして保護者が気軽に参加しあう状況づくりが望ましいと思う。そのためには地域教育コーディネーターの存在が欠かせないし、その手腕も重要。 【PTA】
- ・地域の行事などでもなかなか子どもたちの参加が少ない。子どもが企画にはじめからかかわることで多様な活動が生まれるのが望ましい。 【事業所・企業】

(3) 地域への期待・要望

- ・地域全体が、子どもたちを「自分の子どもと思う」基本姿勢が理想。 【コミ協】
 - ・地域全体で子どもたちを育て、子どもたちを新しい時代を切り開く豊かな人間として育てていくべき。 【PTA】
 - ・地域の住民全体が地域の子子どもたちを見守り、育てていくことを自覚することが大切。（役員になった人たちだけに頼らない、人まかせにしない、協力精神をもつこと） 【育成協】
 - ・地域での子どもたちの様子・環境（居場所等）を常に大人が関心を持って見守り、安心安全の町づくりを目ざしたい。 【民生児童委員】
 - ・親の収入によって与えられる活動に格差が大きくなっている。地域全体で子どもたちをはぐくむという発想はすばらしいと思う。 【事業所・企業】
 - ・親、大人の中から見て危険なことを子どもたちだけでやっていたら、遠慮しないで指導できるような雰囲気に地域全体がなればよい。 【PTA】
 - ・子どもは地域の宝、自分の子と思って接し、教える（しつける）。あいさつ（声かけ）運動、子ども預かり運動、勉強会（家庭教師）、宿題の手伝いをする。 【NPO】
 - ・地域ではぐくむことは大切だと思うが、人材、空間（環境）などが求められると思う。高齢者世帯の増えている実情をしっかりとらえ、地域の活性化に必要なことは何か、課題をしっかりとみつめて解決していかなければならないと思う。地域のみんながよりよい暮らしになってこそ子どもたちは元気に安全に育つものではないだろうか。 【ガールスカウト】
 - ・地域全体で大人が子どもたちを守りすぎてもいけないが、放任しすぎても良くない。子どもたちにも考えさせ、間違っているようなことをしたら、どうしていけないのか、大人が教えてあげることが良いと思う。 【民生児童委員】
-

-
- ・今の世の中はスピードが勝負・命なのか、子どもたちの興味対象となることからの「熱しやすく、冷めやすい」サイクルが非常に速い。世代別の温度差もあり「地域全体で…」という理想を実現するには、ハードルが高いと思う。「みんな違ってみんな…、不平等の平等…」みたいなことの方がおもしろい発想で活動できると思う。ものや情報があふれすぎている時代、難しい課題だ。 【事業所・企業】
 - ・地域全体で子どもをはぐくむことはとても大切なことである。しかし、掲げたミッションが大きいためか、現実的な動きはほとんどない。重要なのは面で支える仕組みである。どうしても行政や組織のつながりが縦割りであったり、個と個であったりするため、何か活動する力が地域で生まれても、活動できる力が育っていくための場が与えられず、つなげられず、パワーレスしている状況があちこちで見受けられる。 【スポ少】
 - ・昭和50、60年代の頃のように子どもの声がする時代は何かと活動も考えられたが、今わが町内に子どもはいない…。こちらの方が重大問題のような気がする。 【事業所・企業】
 - ・子どもたちが一生懸命練習して試合に臨んでいるので、地域全体で応援してもらいたい！！ 【スポ少】

4. 団体について

(1) 団体の運営に関すること

- ・子どもたちにかかわるいろいろな組織があるが、第一線で子どもたちと接する機会とかかわる人の数が少ない。 【育成協】
 - ・知識・情報を提供するよりも「考える子ども」を育てることのできるスタッフが不足である。 【NPO】
 - ・大人どうしの役割分担を明確にし、組織のスリム化で、活用しやすいような環境づくりを望む。 【育成協】
 - ・参加者全体がボランティアでは長く続かない。交通費くらいは出ないと。【事業所・企業】
 - ・練習会場が確保できず、週1回だけの練習しかできないので技術力向上が難しい。【スポ少】
 - ・活動の場所が少ないことを感じる。活動したくても会場がなく、あちこち会場を変えて活動している。中には有料のところもあるため負担も大きい。 【ガールスカウト】【スポ少】
 - ・現在良好な状況で活動ができていると思う。下降体にならないように「継続発展させるために今まで以上に努力すること（会員の充実感等）」と考えている。 【民生児童委員】
 - ・子どもの健全育成に関する事業は、現在手薄になっている。今後、社会のニーズを見ながら拡大していきたいと思う。 【NPO】
 - ・住んでいる地域に子どもが少ないため、思うような活動ができないのが現状。【子ども会】
 - ・児童の数が減ってきているのに伝統行事が多く、親が仕事を休んで親の協力で事業を運営している。今後児童数が増加する見込みもないので、数年後には、現状と同じ活動はできないと思う。 【子ども会】
-

(2) 団体の連携に関すること

- ・各組織が横のつながりを強くする。情報交換が大切である。それぞれの立場で地域の状況を把握しビジョンを示すことが大切。【コミ協】
- ・各団体が単独で活動をするのではなく、地域内の全団体が合同で事業や活動を計画し、地域の大人が参加できるようにする。【事業所・企業】
- ・行政・関係機関・関係団体及び学校等との連携を有機的に展開することが重要である。その中で子どもたちの育成活動について、地域での対応の在り方について、しっかりと話し合う場を作ることが最も重要である。【PTA】
- ・子どもたちにかかわるあらゆる団体、組織が地域コミ協を中心にネットワーク化されることが地域力を高める。【民生児童委員】
- ・子どもたちのスポーツの機会を充実させるために、各関係団体は連携を図りながら地域全体で気軽にスポーツを楽しめる環境をつくるのが大切。【NPO】
- ・子どもたちを支えるさまざまな団体が、コミュニケーションを取り、活動の場を広げることができれば、更に充実したものになるのでは。その実現のためには、やはり地域の子どものための毎日通う、学区の校長先生と、地域の代表の方とのコミュニケーションの場が必要。【PTA】【事業所・企業】
- ・小学校・中学校の連携が一番大切だと思う。学校・PTA・地域住民が学校での子どもたちの様子を知ること、理解することが必要である。あるがままの情報交換が三者でできるようになることが望まれる。個人情報の開示ができないことが妨げになることがあるように思う。【コミ協】

5. 行政・学校・企業・地域の団体への要望

【全般に対して】

- ・もっと子どもたちがいろいろなことにチャレンジできるように、体験活動できる場所をふやしてほしい。【子ども会】
 - ・雨や雪でも遊べるような屋内施設がほしい。【子ども会】
 - ・近くに子どもの遊ぶ”ミニ水辺”が欲しい。【事業所・企業】
 - ・日本人を自覚し生きていくのには何が大切なのだろうと考えた時、やはり「文化」だと思う。「食文化」「伝統芸能」「祭」「風習」など、今まで日本人が脈々としてきたことを大切にすべきだと思う。子どもたちにも「文化」にふれる教育をお願いしたい。【事業所・企業】
 - ・自治体・商工会など、子どもたちのための催しを考えてもらいたい！！【スポ少】
-

-
- ・地域の中に子どもたちをはぐくむ活動をしている団体は多数ある。それぞれの団体の活動内容は有意義で、子どもにとっても意味のあることだとは思っているのだが、あまりにも数が多すぎる。いくつもの団体をかけ持ちで会員になっている人も多数いる。本当に子どもたちの健全育成を図るためには、団体を集約し活動内容をより専門性を高めて、子どもたちの現在、未来に直結する有意義なこと、あるいは学校教育ではできないようなことをやっていくべきかと思う。現状は、大人の自己満足で終わっている（子どもたちには何も影響を与えていない）活動が多すぎる気がする。【PTA】

【行政に対して】

① 教育行政について

- ・地域にとって学校の存在は大きなものであり、単純に規模による学校再編を論じるのではなく、学区割の検討を行うなど、現在あるものを活かすための方策を考えてほしい。【PTA】
 - ・今の教職員は余りにも多忙である。それも机の上でコンピュータに向かわねばならない内容の仕事が多く、子どもたちに寄りそう時間が確保できない。このような実態を思うと、地域が学校に協力したり、学校にかかわったりすることは大切であると思うが、そのために増えた仕事を学校に押しつけて、一層、教職員の負担を増やすことはしないでいただきたい。教職員が教育者としての本来の仕事ができる環境にしてほしいと切望する。余裕のないところにより教育はできないので。大局的に見れば、このことは、子どもたちをはぐくむことと大きな関連性があると思う。【事業所・企業】
 - ・私は安易に一般の人たちを学校支援ボランティアという名目で小学校の教育の現場へ入れることは反対である。それより、より質の良い教師を育成し人数を増やすことを考えるべきだと思う。それを申し上げると、教育の予算が少ないとか、足りないとか、という話になるのだが、だからと言って、誰でも良いから、やりたい人に何かと手伝わせるというのもとても変な話だと思う。良い学校を作ることをお考え下さい。（質の良い教師が使命感を持って、働ける場を作ることが優先である。）地域うんぬんの前に、学校の中身の充実を図っていくことこそが、とても大切なことだと思う。【事業所・企業】
 - ・「地域と学校パートナーシップ事業」に対しての市民へのPR展開は、現状ではとても十分とは言えない（認知度は極めて低い）。【民生児童委員】
 - ・障がい児の放課後支援事業を行なっている。年々利用者が増え、この夏休みは申し込み者の半分近くをお断りせざるを得ない状況である。各地域の学校施設（特別支援教室）等の利用とともに、支援員（介助員）等の協力をしていただき、その地域で障がいの子どもがいてあたりまえの教育をお願いする。【NPO】
 - ・小学校の学校開放は、校区単位ではなく市全域からの参加が可能となるよう、制度改革に向け働きかけをお願いする。【スポ少】
 - ・学校をもう少し開放してほしい。【育成協】
-

② 住民意識について

- ・「地域の子ども」という意識を住民全体が共有できるようにするべきだと思う。そのためには民生委員、町内会などを中心に、そういう体制を作っていくように行政が働きかけていくようにすれば良いのではないかと思う。 【NPO】

③ 行政組織について

- ・行政は福祉関係の部署担当と教育委員会所管があり分散している。力を発揮するには整理統合が必要である。 【民生児童委員】
- ・新潟市の縦割行政の弊害がある。例えば「ふれあいスクール」と「ひまわりクラブ」の問題等。 【育成協】
- ・ひまわりクラブの運営については、現状は市社会福祉協議会に委託しているが、今後は地域密着型にして各区役所・区社協単位にして、きめ細かい対応をすべきでは。 【民生児童委員】
- ・民生児童委員は児童の問題として児童虐待や不登校問題等が中心であり、教育委員会の動きや学校教育の問題、就学支援等に対する情報がほとんど入らない。 【民生児童委員】

④ 活動支援について

- ・活動資金（大会参加費、協会参加費）の補助。 【スポ少】
- ・新潟市の古紙行政収集地域活動助成金は、コミュニティ協議会は受けられるが、それ以外の団体は受け取れない。今まで行っている事業は、新規性がないと断られてしまう。青少年育成協議会も助成金を使い易くしてほしい。 【育成協】
- ・地域での行事（祭りや運動会的なもの）をもっと増やして、地域の大人や子どもたちがふれあえる場面を増やしてほしい。行政からの資金援助も必要。 【伝統文化】

⑤ その他

- ・社会や地域ができることは、インフラ整備（行政予算の投入）と支援体制（ボランティア）である。 【コミ協】
 - ・新潟市には子どもたちをはぐくむ場が本当に少ないと思う。いろいろな施設はあるが使いにくい。地域の子どもたちは無料にしたり、回数券を配布したりしてはどうか（自然科学館、プール、体育館、水族館、植物園等）。冬は特に行く場所や、赤ちゃん・小さい子が遊ぶ場がなくて困っている。子育て支援センターだけでまかなえると思ったら大間違いである。子育て支援センターは駐車スペースも限られている。新潟市はもっと「お金にならないこと」に力を入れてほしい。 【子ども会】
 - ・生涯学習活動について、生涯学習のインストラクター1級の有資格者が市内や県内にどのくらいいるのか把握しているのだろうか。我々は仲間同士で活動を展開しているが、限界がある。どうか、名簿を整理し、あらゆるインストラクターの活動支援を強く要望するものである。（市と県の連携状態も不可欠） 【事業所・企業】
-

-
- ・地域で主たる代表を務める人に対して独断でものごとを行なわぬように行政で指導又はマニュアルを作成して欲しい。広く地域の住民の意見を取り入れず活動していることが多々あるように思う。【事業所・企業】

【学校に対して】

- ・学校にはカリキュラムがあり、その中へ地域が入り込む余地が無いのが現状ではなかろうか。学校と地域（コミ協）とのつながりが希薄である。【コミ協】
- ・子どもたちを地域ではぐくむ中で小学校のかかわりが最近非常に薄くなっている。学校側の無責任さを感じるが多くなった。【スポ少】
- ・高齢化社会、ますます多くの元気な高齢者が増える。何か地域に貢献したいと思っている人も多くいると思う。しかし、何をどうしたらよいかわからない人も多いただろう。特に、子どもにいろんなことを伝えたい、応援したいと思っている人は多くいると思う。学校支援のために学校側からもっと、メッセージを出すべきだ。【民生児童委員】
- ・親が子どものために活動するのは当たり前のことだが、その親の世代（お年寄）が、学校にかかわることのできるきっかけが必要。【PTA】
- ・生徒の意識を変えるのに、体験学習として地域の会社へ講習、出向いて仕事をするのは大変良いことと考える。【PTA】
- ・休みの日にはグラウンドを誰でも自由につかえるように開放し、子どもの交流の場にしてほしい。【事業所・企業】
- ・日本にはすばらしい伝統文化が存在している。外国へ活動を広げるとき、日本のアイデンティティが求められる。伝統を正確に伝えるため、学校教育の中で小さい頃からその環境を作ることが大切だと思う。【事業所・企業】

【企業に対して】

- ・各企業団体に属している者もまた、自分の地域を持っているので、各地域に帰属し活動できるような企業環境を整えてやることができればよいと思う。【事業所・企業】
 - ・今後は地域にある企業等のCSR（Corporate Social Responsibility=企業の社会的責任）をうまく引き出し、人・資金面での拡充を図る必要がある。【NPO】
 - ・教育現場での問題点などについて民間企業を利用して、子どもたちを手厚くフォローしてあげたら良い。【事業所・企業】
-

6. 地域全体で子どもたちをはぐくむ事例紹介

【地域において…】

- ・「地域の伝承文化である神楽舞を後生に伝えよう」と昭和61年、県と市より補助金を受けて「子ども芸能教室」と名づけて開始して以来、地域青少協、小学校の理解と協力で今日を迎えている。毎年の新飯田まつりはもちろん、市民芸能祭などに出演している。この事業を通して地域づくりを進め、青少年の健全育成にも結びつけている。【伝統文化】
- ・巻地区育成協議会では5つある小学校区を順番に回るウォークラリーを実施し、昨年一巡を果たした。今年度から二巡目に入る。大人たちは子どもたちとの交流を喜び、子どもたちは他校の子どもたちとの友情を深める場となっている。また、地域をよく知る機会ともなっている。【育成協】
- ・私の住んでいる金津地区では今だに地域対抗運動会や各種行事があり、他の所よりは、地域とのかかわり合いが多く、地域みんなで子どもたちを見守り、育てているという感じがする。【PTA】

【学校を中心に…】

- ・入舟コミ協では小学校の協力により、先年よりPTA教室を絆ルームと名称を替え、事務所を開設、毎月第2月曜日に役員会を開き、地域に関する諸問題を始め、学校や子どもたちに関する問題などを話し合い、解決・実行している。【コミ協】
 - ・学校の教科書も使って指導している。生徒が今学校でどんなことをやっているのか関心を持ち、同じ方向で指導したいと考えている。ときには、学校に、音楽会などがあつたら出かけて、活発に活動している姿を、ほめてあげたりしている。それによって、生徒も生き生きとし、学校の様子も話してくれる。昨年は合唱コンクール審査員をした。私が行ったことで、生徒はびっくりしていたが嬉しそうであった。【事業所・企業】
 - ・現在も多数の地域ボランティアの方々に子どもたちの安全（登校時等）、教育（家庭科実習）に、多大なる協力を頂いている。地域の異年齢の交流で、子どもたちの安全が守られ、楽しみも増えている。【PTA】
 - ・私はセーフティスタッフの一員として、毎朝登校時、交差点での事故防止のため、交差点に立っている。赤信号で待っている間、いろんなことを私の方から話しかけている。なれてくると子どもの方から話しかけてくる。こうしたコミュニケーションをはかりながら、子どもたちの健全育成に努めたいと思う。【民生児童委員】
 - ・松野尾小学校で地域教育コーディネーターをしている。学校支援ボランティアとして地域の皆様から、たくさんの活動に参加していただけるようになった。コミ協やPTA活動も活発な地域である。こうした地域の方たちとふれ合い、感謝の気持ちを持ちながら子どもたちは成長していくのだと思う。【事業所・企業】
 - ・西川竹園高校のPTAがやっている「便所の便器を素手で親・生徒・先生が協力してきれいに掃除する」というのは、トイレを汚す子どもと、親が掃除することのありがたさを考えるうえですばらしい試みと考える。【PTA】
-

